

編 集 後 記

授業参観に行った中学校の教室前の廊下の壁には様々な掲示物があった。その中に生徒の「大きな夢」が書かれたものがあり、見ると「志望校（受験）合格」の文字がやたらと目立つ。3年生の教室だから、わからないではないが、それが「大きな夢」というのにはやや違和感がある。「大きな夢」というには小さい感じがするし、そもそも試験に合格すること自体は、その先の“夢”を叶える過程での一つの目標でしかないはずだ。

子どもたちが手段と目的を取り違えているとしたら、私たち指導者が、平素のコミュニケーションの中で、子どもたちが「大きな夢」として捉えてしまうような雰囲気を作っているとも感じる。中学校では「高校受験」、高校では（普通科高校を中心に）「大学受験」が当面目指す山の頂になっているのは否めない。

「会社の目的は利益ではない」を教育現場に置き換えるなら、「学校での授業の目的は入学（入社）試験に合格することではない」になる。だから試験勉強など重要ではない、ということでは決してない。「読み・書き・そろばん」は学問の基礎である。

将来のことを尋ねると「まだ自分のやりたいことが何なのかわからない」と答える学生が多いのは、各学校現場で目指していた山の頂の向こう側に見えてくるものについては先送りしてきたからだとも言える。「本当に大切なことは目には見えない」ものだからと、目をつむってしまうことを奨励されていたわけではないにしても、最も多感な10代後半の時期にこそ目を見開いて模索し、経験し、学んでおきたいことが多いのは間違いない。

失敗体験の話聞く方が成功体験の話聞くより何倍も面白い。一所懸命やって失敗した話を、変に飾らずにさらけ出して話せる人ほど信頼関係を構築しやすい気がする。失敗の原因を、しっかり自分自身に指先を向けて語れる人に親近感を覚えやすいからだと思える。私たち大人は、もっと失敗を語れるようにならなければならないと思うことがある。

学生にとって、親族以外で最も身近な社会人は教員であることを再認識し、日々、向き合っていきたいものである。

「星稜論苑」第47号の発刊に当たり、執筆された6名の先生方の、日常取り組まれている教育研究活動と成果に心から敬意を表し、感謝を申し上げますとともに、今後もさらに教育研究に精励されることを願いたい。

平成30年12月

山 本 航

星 稜 論 苑 第47号

平成30年12月25日印刷
平成30年12月26日発行

発 行 金沢星稜大学学会短期大学部会
〒920-8620 金沢市御所町丑10番地 1
TEL (076)253-3984
FAX (076)253-3998

印 刷 所 ソノダ印刷株式会社
〒921-8161 金沢市有松 4 丁目3-26
TEL (076)247-5157

金沢星稜大学学会短期大学部会

部 会 長 山 本 航
編集委員 横 野 成 美